

あつま 生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①芸術鑑賞会/図書フェスティバル
- ②高齢者大学/厚真の文化財について
- ③アウトメディア取組結果/働き方改革
- ④成人式案内/歳末助け合いチャリティ
演奏会/定例教育委員会/聖火リレー
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動紹介

児童生徒芸術鑑賞会開催 N響がやってきた!

11月12日(火)、児童生徒芸術鑑賞会が開催されました。今年は、NHK交響楽団「こども音楽クラブ」を招き、中央小学校(小学生の部)と厚真中学校(中高生の部)の2会場それぞれ演奏が行われました。



中高生の部(厚真中学校)の様子

ゲストの梯剛之(かけはしたけし)さんのピアノ伴奏に合わせたバイオリン、ビオラ、チェロなどの共演で奏でられる美しい音に児童生徒は聴き入りました。演奏の終盤には、N響の伴奏で各校の「校歌合唱」が行われ、会場は一体感に包まれました。子どもたちからは、「いつも弾いているピアノとは思えない演奏に驚いた」「プロのすごさを感じた」などの感想が聞かれました。



小学生の部(中央小)の様子

文化祭

図書フェスティバル



総合福祉センター会場

11月3日の文化祭では、福祉センターと青少年センターの2会場で「図書フェスティバル」が開催され、幼児から小学生までの約150人の子どもたちが参加しました。青少年センター会場では、プラネタリウムでおはなし絵本、クイズラリー、缶バッジ作りなどを実施、総合福祉センター会場では、射的、ぬりえ、けん玉検定、くじ引きが行われました。各会場には、子どもたちの元気な声が響きわたりました。



ぬりえコーナー



しゃてきコーナー



けん玉検定

青少年センター会場



プラネタリウムでおはなし絵本



缶バッジ作りに並ぶ子どもたち



ケルシー先生に英語で質問

青少年センターで高齢者大学を開催

11月8日（金）、青少年センターで行われた高齢者大学に41人が参加しました。前半はプラネタリウムの投影が行われ、平成29年に導入された新しいデジタル投影機で、光り輝く星空が投影されると大きな歓声が上がりました。

秋の神話は、アンドロメダ座の話クイズを交えて楽しみながら行いました。参加者からは「他の季節の星座のお話を聞きたいので、今度は団体の集まりで利用したい」と要望がありました（毎週土曜日午後1時30分から行っている定期投影のほかに希望があれば上映）。

2階ホールでは、軽舞発掘整理事務所に展示している懐かしい生活用品や昔のレコードの一部を展示し、「いずこ」や「アイロン」を手に取り、思い出話に花を咲かせていました。昭和40年代に製造された投影機を使ってオリンピックの歴史について学芸員が説明を始めると人だかりができ、急遽、椅子を用意する場面もありました。



東京オリンピックを来年に控え、オリンピックへの関心の高さが伺えました。

また1972年札幌オリンピックの聖火リレーのトーチを手にとった方は「思っていたよりも重いね」「これは本物？」と驚いた様子でした。

このほか、読書が与える効果や図書室の利用についても説明があり、今回の高齢者大学を通じて、多くの方が青少年センターに足を運んでくれることを期待しています。

厚真の文化財について

これまでの保管と活用

教育委員会の仕事のひとつに、厚真町の歴史と文化を調査し、記録保存して町内外へ発信、伝えていくことがあります。地域の歴史や伝統を学ぶことは、ふるさとへの誇りや希望、新しい付加価値を生み出すことにつながり、これからの魅力溢れるまちづくりへの大切な財産となります。

教育委員会では、昭和47年（1972年）から郷土資料館を設置し、昭和55年に青少年センターの一室に移転。厚真町の歴史を紹介してきました。平成24年からは前年に閉校した旧軽舞小学校を遺跡調査整理事務所として利用し、平成26

年には旧幌里小中学校に保管していた明治開拓期以降の民俗資料、平成27年には青少年センターからも展示資料を移転集約しました。

現在、10,800点もの生活民具や農林業、漁業などの道具や写真、閉校となった学校の資料などを保管、展示公開しています。皆さんにはあまり知られていない施設ですが、現在では年間約700人が訪れ、多方面に厚真町の歴史などを伝える役割を果たしています。今月から少しずつですが、軽舞事務所をはじめ、本町の文化財などについて皆さんへ紹介します。



左：軽舞事務所 中：遺跡からの出土品
右：町内小学校の校外授業「昔の道具」での学習の様子

「アウトメディア」に係るアンケートの結果概要

本町の子どもたちの電子メディア利用についての状況を把握し、アウトメディア運動の一層の充実を図るため、こども園から中学生までの保護者の皆様にアンケートを実施しました。

園児80人分(46%)、小学生138人分(58%)、中学生77人分(64%)、計295人分(在籍数の56%)の回答をいただきました。アンケートの大きな集計結果をお知らせします。

※割合(%)は、アンケートの回答総数に対する割合です。

1 就寝・起床について

土・日に、夜10時以降に就寝する園児は29人(38%)、小学生は73人(53%)、夜11時以降に就寝する中学生は47人(61%)、休日に平日よりも2時間以上多く睡眠をとる小学生は11人(8%)、中学生は34人(44%)です。

2 電子メディアの1日の総利用時間は?

アウトメディア運動では、1日の電子メディアの総利用時間は「2時間以内に」と奨励しています。平日、電子メディアの利用を2時間以内で終わらせている園児は50人(67%)、小学生は63人(46%)、中学生は28人(36%)です。

3 電子メディアを夜10時以降も利用しているのは?

平日に、夜10時以降、電子メディアを利用している小学生は8人(6%)、中学生は23人(30%)です。

4 お子さんがスマホを持つとしたら、いつごろがよいですか。(園児、小・中学生の保護者の回答の合計)

「小学生で」が12人(5%)、「中学生で」が55人(21%)、「高校生で」が175人(68%)、「高校卒業後」が9人(3%)、「大人になってから」が7人(3%)となっています。

5 ネットやゲームを「やめられない? 小・中学生」

小・中学生で、ネットや電子ゲームなどを「やめられないことが多い」のは15人(7%)、「なかなかやめられない」のは11人(5%)となっています。

6 電子ゲームやスマホ利用のルールづくり

小・中学生で電子ゲーム機利用のルールを作っているのは、129人(78%)です。

7 家庭でのアウトメディアの取組は?

「家族の会話や家族で過ごすことを多くしている」、「電子メディア以外の遊びの工夫している」家庭が多く、こども園ではさらに「電子ゲーム機の利用を最小限に留めている」家庭も多く見られます。これらとは逆に「夕食時にテレビを消す」家庭が少ないようです。

厚真町立学校における働き方改革

教員の長時間勤務が教育現場の大きな課題となる中、厚真町では「厚真町立学校における働き方改革アクション・プラン」を策定し、教育委員会と学校との連携による働き方改革に向けて業務改善を推進することといたしました。概要は次のとおりです。

1 本来担うべき業務に専念できる環境の整備

- 専門スタッフの配置
- ICTの活用
- コミュニティスクールの活用 等

2 部活動指導にかかわる負担の軽減

- 部活動休養日の実施(平日1日、休日1日以上)
- 活動時間の設定(平日2時間、休日3時間)
- 部活動指導員の配置 等

3 勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実

- 月2回以上の定時退勤日の設定
- 年2回以上の時間外勤務縮減強化週間の設定
- 長期休業中における「学校閉庁日」の設定(8/13~15、12/29~1/3 ※実情に応じて変更) 等

4 教育委員会による学校サポート体制の充実

- 調査業務等の見直し
- 勤務時間に関する制度の有効活用
- 学校行事の精選・見直し 等

5 教頭業務の改善

- 教頭に業務が集中しないよう、業務内容の改善 等

保護者・地域の皆様へのお願い

教員が、子どもたち一人一人の力を最大限に伸ばすためには、長時間勤務を改善し、健康で意欲的に授業や授業の準備ができる環境づくりが重要です。皆様のご理解をお願いいたします。

令和元年度成人式について

令和元年度の厚真町成人式は、68 人が対象となっています。日時、会場等は次のとおりです。

◆とき

令和2年1月12日【日】午前11時から

◆ところ

厚真町総合福祉センター

◆対象者

平成11年4月2日から平成12年4月1日の間に出生し、本町に住民票を置いている方及び本人が町外へ転出していても、保護者等が本町に在住している方。

◆案内状の発送・出欠について

対象となる方には、11月中旬にご自宅(ご家族)宛に案内状を送付しております。出欠は案内状に同封の返信用はがきに記入のうえ、12月11日【水】までに返送ください。

本人が町内に不在の場合は、ご家族の方が本人と連絡をとっていただき、返送をお願いします。

対象となっている方で、案内状の届いていない方は下記宛にご連絡ください。

◆問合せ

教育委員会 社会教育グループ

☎27-2495

歳末助け合いチャリティ演芸会

厚真町婦人団体協議会では、「第42回歳末助け合いチャリティ演芸会」を開催します。昨年は開催できませんでしたが、今年は様々な団体さんが歌や踊りなどを披露する予定です。入場には1口300円の募金券を購入していただきますが、収益は社会福祉協議会に寄付されます。

多くの皆様のご来場をお待ちしています。

◆とき 12月1日【日】12時開演

◆ところ 厚真町総合福祉センター 大集会室

◆入場料 1口300円の入場券(募金券)を購入の上、入場してください。入場券は当日会場でご購入いただけます。

◆問合せ 教育委員会社会教育グループ
☎27-2495



10月定例教育委員会

10月31日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆教育長報告

令和2年度教職員当初人事について

◆報告事項

令和元年度厚南地区第2回学校運営協議会(9月25日厚南中学校)/英語教育推進委員会第6回連携部会(10月4日上厚真小学校)について/10月9日JAとまこまい広域農協から学校給食センターに新米「ななつぼし」50kgが寄贈(10月10日学校給食で提供)/重要考古資料の文化庁調査官による整理指導について(9月18日~20日軽舞遺跡発掘整理事務所ほか)/第19回健康ふれあいマラソン大会(10月14日日本郷かしわ公園野球場周辺:参加者78名)

◆議案

厚真町心のサポート・防災学習推進協議会設置要綱の制定について

◆問合せ

教育委員会学校教育グループ

☎27-2494

聖火リレーが厚真で開催

東京2020オリンピック開催に伴い、オリンピック聖火リレーが開催されます。令和2年3月12日(木)ギリシャで採火式が行われ、その後、日本国内のリレーが始まります。令和2年6月14日(日)~6月15日(月)には、北海道聖火リレーが開催され、15日は厚真町を通過することが決定しています。

11月12日~14日には、総合福祉センターで聖火リレーパネル展示が行われました。下の写真は、その時のパネルの写真です。



図書室だより

青少年センター図書室

TEL 27-2495 (平日)

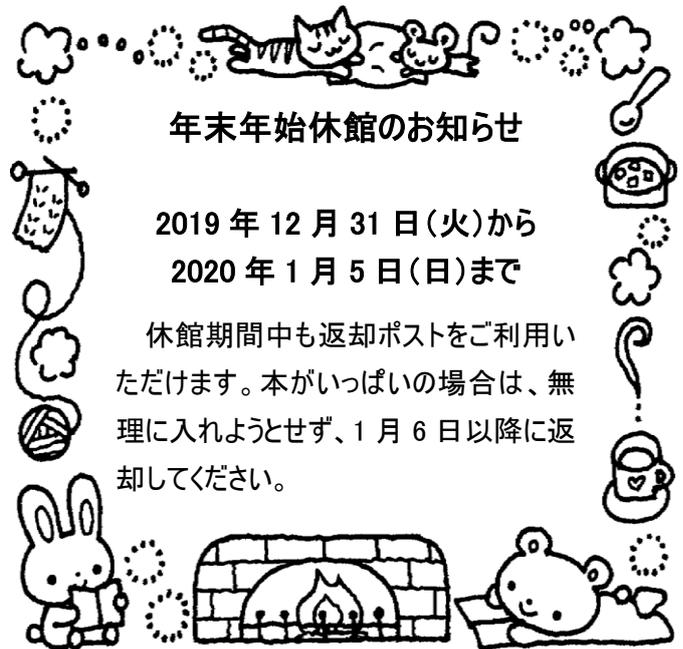
図書フェスティバルへのご来場ありがとうございました

11月3日の厚真町文化祭に合わせて開催した「図書フェスティバル」、今年は今までと趣向を変えてプラネタリウムでのお話し会と缶バッジ作り体験を実施しました。子どもたちは缶バッジをよろこんでくれるのかと不安もありましたが、終わってみると100個以上の缶バッジを作っていました。缶バッジを見たらアンドロメダ座のことを思い出してください。



今年も読書感想文おすすめコーナーを設置します。主人公がみなさんと同じ世代のお話、生き物と人間のお話、自分がこの立場だったらと考えてほしい本などを中心に選んで展示します。本選びに困ったら、図書室に借りに来てください。読書感想文の書き方は学校先生に聞いてくださいね。

展示期間 12月16日から1月15日まで
展示場所 厚真町青少年センター図書室
児童書コーナー



年末年始休館のお知らせ

2019年12月31日(火)から
2020年1月5日(日)まで

休館期間中も返却ポストをご利用いただけます。本がいっぱいの場合は、無理に入れようとせず、1月6日以降に返却してください。

今年の読書記録を残しませんか？

2019年に厚真町公民館図書室で借りて読んだ本の読書記録を、小冊子にして希望者の方にお渡しいたします。図書システムを通して貸出をした本が対象です。見本を青少年センター図書室カウンターに置きますので、ご覧ください。1冊1冊手作りしますので、お渡しするまで時間をいただきます。

申込み期間 : 12月1日から20日まで

お渡し期間 : 12月25日以降

■青少年センター 12月の休館日

31日(火) 年末年始休館

■青少年センター図書室開館時間

午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)
午前9時から午後7時(火・木)

■厚南会館図書室

午前9時から午後5時(月~日)
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

12月のおはなしのびっこは12日(木) 10時から 青少年センター絵本コーナーです

☆放課後子ども教室☆

初雪の便りも届き、今年も冬がやってきます。大人になると、厳しい寒さや雪かきの手間を想像し、憂鬱な気分になることもありますが、子どもたちは今か今かと降り積もる雪を待っています。今年の冬は、子どもたちのまねをして、白く光る銀世界をワクワクした気持ちで待ってみたいと思います。

10月後半から11月前半にかけて、放課後子ども教室では『遊び会議』というプログラムを実施しました。普段、子ども教室で行う活動内容は、スタッフが企画をしていますが、子どもたち自身が考えて実施するというのが『遊び会議』です。スタッフから企画を考えるときのポイントと、大まかなジャンルが提示され、ジャンルごとにチームを作り、さっそく会議を始めました。考えた遊びを実施する時間は、各チーム15分程度です。やりたい遊びの候補がたくさん挙がった時に、どういう方法で決めるのか、それも各チームの判断に任されています。多数決で決めるチームもあれば、時間配分を調整して挙がった候補を全部やるというチームもありました。内容が決まったら、実際にやってみます。使う道具の準備からルールの説明、チーム分けまで、子どもたちが自分で行なうのですが、これが一苦勞。5分のドッチボールをやるために、準備に30分かかったこともありました。すべてがイメージ通りとはいかなかったとしても、自分のアイデアを形にできるという経験が、子どもたちの想像力・創造力につながればと思います。このほかのプログラムでは、植物の種を探す秋の自然探検や、ハロウィンにちなんだ飾り物作りなどを行いました。



11月10日(日)に放課後特別教室『あつまっ子ふるさと体験教室』で、収穫祭プログラムを実施しました。春に田植えをし、先月の稲刈りで収穫させてもらった新米をメインに、厚真産の食材とともにいただきました。お米が炊けるいい匂い。驚くほど甘くてホクホクだったカボチャ。甘酸っぱいハスカップクリームは、デザートに作ったドーナツにぴったりです。楽しく作り、みんなで美味しく食べられるこのひときは、宝物のような時間でした。子どもたちの体の成長にはもちろんですが、ふるさとの誇りを育むうえで、“食”が担う役割は大きいと思います。こんなにも豊かな食材が身近にある環境を、もっと大事にしていきたいと感じるプログラムになりました。

